

子どもの本だな 28

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

はたらきもののじょせつしゃけいていー

バージニア・リー・バートン ぶん・え

いしい ももこ やく (福音館書店)

はたらきもののけいていーは、赤い大きなトラクターです。じえおぼりすという町で働くけいていーは、夏はブルドーザー、冬は除雪車になって、難しい力のいる仕事ほど喜んでやりました。

大雪が降った日、町では雪が2階まで積もり、誰もかれも何もかもが動けなくなりました。けれど、けいていーだけは動いていました。「たのみます！」困っていた町の警察、郵便局、電話局…いろんな人たちから頼まれたけいていーは、「よろしい。わたしについていらっしゃい。」と、町中の雪をどんどんかきのけ、やがて町はいつものように動き出しました。

「ちゃっ！ちゃっ！ちゃっ！」と力強く動き回るけいていーが大活躍します。見開きいっぱい描かれる細やかな絵は、見ているだけで楽しめます。仕事を終え、うちへ帰るけいていーの姿に大満足です。読んでもらえば3~4歳から楽しめます。(池之上)

長い冬休み

アーサー・ランサム 作 神宮輝夫 訳 (岩波書店)

冬休み、湖のそばの農場にやってきたディックとドロシア。姉弟は、ボートを漕いでいた二組のきょうだい、ツバメ号の四人、アマゾン号の二人と友達になりました。彼らの石積みのイグルーに招かれたディックたちは、湖の北端を探検する「北極」探検の隊員となり、モールス符号と手旗信号の特訓を始めました。探検隊のキャプテン、ナンシーがおたふく風邪にかかり、思いがけず休暇が一か月伸びると、子どもたちはスケートや橇を練習し、毛皮でミトンや帽子を作りながら湖の凍結を待ちました。やがて湖は完全に凍結。ディックとドロシアは信号の行きちがいがもとで、二人だけで橇を引き湖の北をめざします。マストを立てて帆をはると、橇は暴風雪を突いて飛ぶように走りはじめました。

冷静な判断で危機を乗り越えるディックが頼もしく、仲間とともに冒険をやりとげた喜びにあふれています。11歳位から。(ランサム・サーガ4)

(片木)

2月	3月	2・3月の移動図書館(いずれも木曜日です)				
4日	10日	塚森 地域内 10:30~10:50	沖代 地域内 11:00~11:20	福地(三反長) 地域内 14:30~14:50	米田 公会堂 15:00~15:20	竹広南 公民館 15:30~15:50
18日	17日	岩見構下 公民館 10:30~10:50	岩見構上 公会堂 11:00~11:20	原池団地 公民館 15:00~15:20	山田 掲示板前 15:30~15:50	原 太田東地区農村 交流センター 16:00~16:30
25日	24日	広坂 公民館 10:30~10:50	上太田 公民館 11:00~11:20		吉福 公民館 15:30~15:50	太子 ニュータウン 公民館 16:00~16:30

お知らせ

やさしい科学の講座

宇宙のふしぎ・

星のひみつ

日時：3月6日(日)

午前10時30分~

11時45分

講師：秋澤 宏樹 氏

対象：小学生以上

会場：あすかホール

ミニシアター

※申込が必要です。詳しくは図書館まで。

『シンドラーに救われた少年』 レオン・レイソン著

古草秀子訳 河出書房新社 214頁 2015年7月刊 1,650円 (請求記号) Bレ

本書は、ユダヤ人である著者が第二次世界大戦中の経験を七十年近くたってからあらわしたものだ。

レオンはポーランドの田舎ナレフカで働き者の鍛冶屋の祖父を中心にした大家族の最年少の子として、幸福な子ども時代を過ごしていた。レオン一家はユダヤ人だが、ポーランド人の隣人とも楽しくやっていた。平和な時代には、民族や宗教の違いはただの違いとして互いに受け入れた。レオンの父は都会クラクフに出、ガラス工場の職人として働き、家族を呼び寄せる。レオンは都会の暮らしにもすぐ馴染み、ポーランド人の少年たちとスリル満点の電車のタダ乗りあそびをしたり、楽しく過ごしていた。レオンが十歳の時、第二次世界大戦がはじまりドイツ軍がポーランドに侵攻し、ユダヤ人一家にとって何度も「これ以上悪い事がおきませんように」と願うしかない過酷な日々が始まった。ヒトラーはありとあらゆる問題の責任をユダヤ人に押し付け排斥しようとした。そんな恐怖の中、ナチ党員の工場主が技術の高さを見込み、レオンの父を雇うと申し出る。その工場主の名はオスカ・シンドラー。シンドラーはレオンの一家や他のユダヤ人千人余りを熟練工と偽って雇い入れ、ナチスの幹部の目をごまかしながら終戦まで彼らをかくまっていた。最悪の状況の中においても、本来の自分を見失うことなく相手を見極め、行動できる人がある。その一方、深く考えることなく安全な立場に身を置き、権力に融合してしまう人がある。第二次世界大戦中アメリカ合衆国に亡命したユダヤ人哲学者、アンナ・ハーレントのナチス幹部の裁判を報告した『イェルサレムのアイヒマン』には、ドイツ占領下の国々で、ナチスの対ユダヤ人行動が大きく異なったこと、その原因は各々の国の持つ国民性ではないかと書かれていた。

著者のレオン・レイソンは淡々とした語り口で事実を伝え、感情的にはなく冷静に何が問題なのかを問いかけてくる。

(西村)

2月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29					

3月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

<日曜日の絵本の時間>

2月21日

時間：11時から

場所：おはなしの部屋

対象：2～3歳

保護者の方も入れます

カレンダーの×印は休館日です。開館は10時～18時。金曜日は20時まで開館しています。

地下水

「わあ、雪！」小さな子の声が、館内に明るく響いた。風に吹かれて勢いよく降る雪に遊ぶ子どもの素直さが新鮮で、こちらの気分もぱっと浮き立った。

「子どもの頃は、確かに雪も嬉しかった。ペロペロの薄い制服と底の薄いビニール製の靴で学校に行くのも平気だった。」と、姉と三十年前を振り返った。心身ともに幼い頃の強さが衰えてしまった現在を笑いながら。

雪がうつつすら積もった朝、誰も踏んでいない雪の上を歩こうと外に出た。新聞配達バイクの痕にゴミ出しに出た何人かの足跡がついていてがっかりした。ふかふかとした雪がきれいに残っている道の端を歩いていると、側溝から出てきた動物の足跡がある。5cmほどのひし形の足跡が50cm間隔でついており、また側溝に入っていた。家に帰ると、庭に出ていた猫の足跡を見てみた。丸い。図書館で『足跡図鑑』を繰ってみても、どれもしっくりこず、キツネくらいかな、で終わってしまった。爪が何本あるかとか、肉球の形をもっと詳しく見ておけばよかった。

雪そのものを喜ぶ気持ちほどこかにいってしまっただけで、今回は、雪のおかげで動物さがしができ、本で、動物の歩調によって足跡の付き方が違うことや、前足と後ろ足の形が違うことを知ることができた。

(竹内)

